

2024年2月13日
海洋開発委員会

論文査読小委員会の皆様へ

お忙しい中、土木学会論文集「特集号（海洋開発）」の査読にご協力いただきありがとうございます。本委員会では、海洋開発というフロンティアに関わる学術シンポジウムの開催にあたり、幅広く積極的に論文を採用してきた経緯があります。査読をお願いするにあたり、

『どのような論文集を目指し、どのような論文・報告を掲載し発信していくか』

といった委員会の考え方を『土木学会論文集「特集号（海洋開発）」の採用の方針』として、以下にとりまとめております。査読方法と今後の流れを記した後掲の『査読概要』、WEBシステムに掲載されている『査読基準』とあわせて、査読前にご一読ください。

1. 土木学会論文集「特集号（海洋開発）」の採用の方針

- 1) 「海洋の開発・保全に関する技術情報」および「海洋の開発・保全に関連する技術情報」について、萌芽的なものも含めて幅広く積極的に採用します。
- 2) **Journal** としての登載論文および報告の質を上げていくことが不可欠なことから、論文・報告に本質的に要求される「有用性」、「信頼度」については、他の論文集と同じように査読基準として重視いたします。また、査読基準に掲げた「否とする条件」に該当する場合には、登載を不可といたします。
- 3) ただし、本委員会の特徴である「幅広く積極的に採用する方針」を継続し、新たな情報をいち早く伝えていくために、評価に「新規性」、「速報性」の2つの項目を掲げております。有用性、信頼度など原稿の完成度に多少の疑義、疑問な点が見られる場合でも、1) で掲げた情報として新規性、速報性が高くかつ有用性、信頼度の点で修正が可能と判断される場合には、指導的なコメントをいただけますようお願いいたします。

2. 査読概要

査読方法、今後の手続きの概略は、以下のとおりです。

1) 査読方法の概略

本特集号の査読は、WEB システムを利用し、要旨原稿による第1次査読、本原稿による第2次査読の2段階で実施します。それぞれの段階で以下のような評価ならびにコメント、査読結果報告をしていただきます。

(第1次査読)

第2次査読に進むべき：7点

第2次査読に進むべき（軽微なコメントあり）：6点

第2次査読に進んでも良い（大幅な修正が必要なコメントあり）：4点

第2次査読に進むべきではない（要：判定理由）：-3点

(第2次査読)

登載可：7点

軽微な修正が必要：6点

大幅な修正が必要：4点

登載不可（要：判定理由）：-3点

査読基準にもありますように2名以上の査読委員が「-3点」ならば登載不可、1名が「-3点」ならば論文集編集小委員会での審議となります。皆様の査読結果をもとに、海洋開発委員会幹事会の意見を踏まえ、論文集編集小委員会において、登載の可否を判定いたします。

なお、3人の査読委員によりアップロードされた査読結果は著者により閲覧可能となりますが、査読者の御名前は著者には通知されません。

2) 具体的な査読手続き

第1次投稿締切後に、第1次査読の連絡メールをお送りします。基本的な流れは、第1次、第2次でほぼ同様です。論文査読システムにログイン後、担当原稿をダウンロードしていただきます。査読終了後に、査読結果と査読コメントをアップロードしていただきます。

※なお今回から、論文投稿・査読システムが変更となります。新しい査読システムの使用方法につきましては「EasyChair 査読者用マニュアル」にとりまとめておりますので、下記 URL からダウンロードいただき、ご一読をお願いいたします。

土木学会海洋開発委員会「論文投稿・査読システム」

http://committees.jsce.or.jp/ocean/regist_top

3) その他

今回から、一般セッション課題、特別セッション指定課題ともに、「論文」と「報告」の2種類の原稿区分で原稿を募集しています。それぞれの区分の定義を以下に記載いたします。査読の際には、その原稿の区分を考慮した上で査読をして頂けますようお願いいたします。

a) 論文

理論的または実証的な研究・技術成果，あるいはそれらを統合した知見を示すものであって，独創性があり，論文として完結した体裁を整えていること．

b) 報告

調査・計画・設計・施工・現場計測などの報告で，技術的・工学的に有益な内容を含むもの．

以上